ふれあいの場「さとのきっさ」

～喫茶店を通し見えてきたこと～

はるとりの里デイサービスセンター
土井　しのぶ

はるとりの里デイサービスセンターの紹介

・開設	平成11年11月
・併合施設	特別養護老人ホーム 訪問看護ステーション ヘルパーステーション 居宅介護支援事業所
・定員	44名 （1日平均34名）
・平均介護度	要介護2．2
・平均年齢	84．9歳
・男女比	1．3

喫茶店開店のいきさつ

・喫茶店を始める以前の利用者様の過ごし方

→脳トレ・塗り絵・DVD鑑賞等座って
出来るを物提供し過ごしてもらっていた。

・利用者様の中には、
「家にいても嫁や娘が家の事をするのでいいから座ってなさい。」と諦めの気持ちを抱く方も・・・。

昨年の介護保険制度の改正によりサービス利用時間が1時間長くなり、以前と同じ過ごし方でいいのかと感じる

利用者様が集まり交流できる場 ➡ **喫茶店**

利用者様 ➡ **従業員**

⬇

料理や掃除等の家事

喫茶店を利用する側、営業する側

「いきがい」

感じてもらうことが出来れば・・・。

喫茶店の開店に向けて

・喫茶店の開店にむけ昨年の３月より準備を開始。
喫茶店活動に欠かすことの出来ないエプロンやマット等「自分たちで喫茶店をやるんだ」という気持ちを高める為利用者様の手で作ることにしました。

・オーブン陶芸（お皿）

・切り絵や造花
（喫茶店の装飾品）

・開店記念の
キーホルダー

・針を扱うのは危険！
　という勝手な思い込みから取り組む事のなかった
　裁縫に挑戦しました。

・手が覚えており、みなさんとても綺麗に縫い上げ
　ていました。
・認知症の強い方が「昔、和裁洋裁は得意だった」
　と熱心に取り組まれる姿もみられました。

・作業終了後に針が床に落ち
　ていたり数が合わなかった
　事もあった。
　→針の数を8本と決め、
　　作業終了後は必ず確認

喫茶店の準備も出来上がり、昨年の４月から･･･

「さとのきっさ」
オープンしました！

営業時間
am10:00 ～ pm12:00

喫茶店をご利用する方

・デイサービス利用者様
・一般のお客様
・施設の職員

デイサービス利用者様には、開店と共にきて頂く方もいれば、
入浴後にのんびりと喫茶店で過ごす等それぞれです。

「さとのきっさ」の１日

開店準備

午前9：30より準備が始まります。

・テーブル拭き

・シュガーポット等
テーブルの用意

・コーヒーを落とす

今では、喫茶店に出向きコーヒーを落としに来てくれたり「喫茶店の準備がしたい」と頼むだけで、すべてしていただける方もいらっしゃいます。

・「さとのきっさ」ではコーヒーセットとして、
飲み物と**お菓子**をセットにし提供しています。

メニューは、毎月変わり以前は
チーズケーキや水羊羹などにも
挑戦しました。

**提供するお菓子は、選択プログラム
というカラオケやゲーム、お菓子作り等
５～６個のプログラムを用意し選んで
参加して頂くというもので、お菓子作り
を選んだ利用者様と一緒に練習し皆さん
で味見もします。**

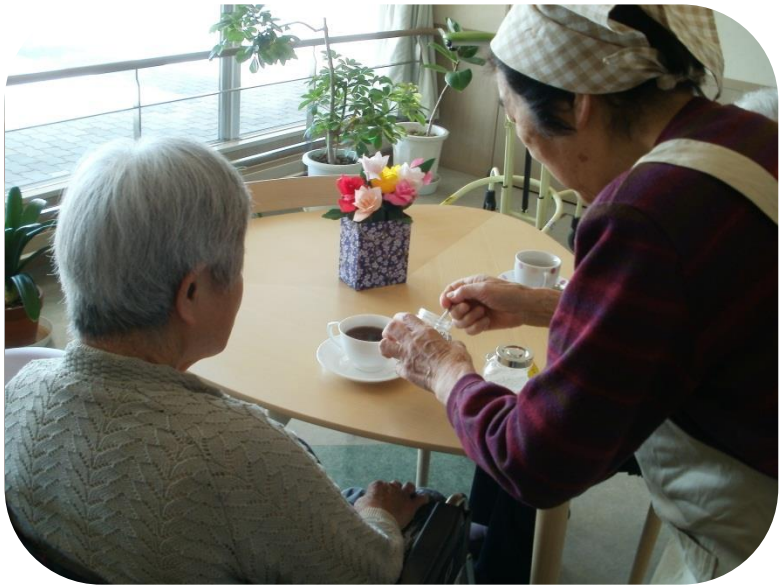
お菓子作り

- お菓子作りは、調理器具・材料を用意する所から始まります。
- レシピ見ながら、また分からない所は職員や利用者様と相談しながら作業されています。
- 利用者様同士が「私は目が見えないから量りを見てちょうだい」と声をかけあったり、生地を混ぜていると隣にいた利用者様がボウルを押さえていてくれたりとお互いが助け合う場面も。

・１０時になり、開店準備も出来ると利用者様の掛け声と共に喫茶店がオープンします。

注文を聞く

お客様に挨拶をし注文を聞きます



茶碗を洗う

お客さんが帰るとお茶碗を洗います

- **「茶わんをためておくのは嫌」と洗ってくださる事が殆どです。**
- **飲み終わった方が洗い場に持って洗って帰られることも多くあります。**

配達

支援センターや他事務所への注文配達も行っています

事務所に注文を取りに行く。

喫茶店に行き飲み物を持っていく

事務所へ戻る

・デイサービスから喫茶店までは距離がありますが、疲労感も見せず取り組まれています。

後片付け

１２時になると喫茶店の後片付けをします。

- モップかけやテーブル拭いたり、足の不自由な方にはエプロンを畳んでいただいたりと自分にできる仕事を見つけ行っていただいています。
- 清算の際は「今日はお客さんたくさん来たからね。」とお金をみて皆さんで喜ばれる姿もあり、一生懸命働いたという達成感を利用者様同士で共有しています。

モップをかける

使用したエプロン等を畳む

清　算

喫茶店を始めて感じた事

- 「筋力低下の為に体を動かしましょう！」と声を掛けても、「職員さんに言われたから仕方ない・・・。」といった反応が多くあった。
- 喫茶店活動の中では、

自然と体を動かす事が出来る

という場面が多くみられた。

この方は、普段足が痛いからと車いすを使用されていますが、テーブル拭きをお願した所いつの間にか立って作業されていました。

・喫茶店を通し、馴染みの顔ぶれも増え

利用者様同士のコミュケーション

が増えた。

・「コーヒーでも飲みにいこうか。」と誘いあったり普段なかなかお話されない利用者様同士の交流のする機会が増えた。

・喫茶店で働く利用者様にはこんな方も・・・。

- 自宅で使用しているエプロンや三角巾等を持参する利用者様が増えた
- 「人前に出るからと。」洋服に気を使う方
- お菓子作りの際には、「どうやったら上手に作れるか。」を考えてきてくれる方

喫茶店で働くことを楽しみにしている方が増え

生きがい・意欲の向上

に繋がっているように思います。

・喫茶店活動を通し、**職員の意識も変わった。**

・以前は、怪我や転倒等リスクばかり考え実行に移す事が
できなかったが喫茶店でいきいきと働く姿から
「まずやってみよう」という意識が芽生えた。

・「利用者様のできる事はして頂く」・「時間がかかっても見守る」

＜自立を支援する介護＞

をがけるようになった

今後の課題

・「私ばっかり働いてる・・・。」とつぶやく利用者様もおり、満足で職員の終わっているように感じる。
職員が利用者様の気持ちを把握できるよう心掛ける。

・参加する利用者様が熱心に取り組むあまり倦怠感がでてしまう。
体調や様子をしっかりと観察し報告しあう。

・調理の際にホットプレートで火傷をしてしまったり、茶碗が欠けていて手を切ってしまう等の事故もありました。
リスク管理をしっかりと行う。

「さとのきっさ」も1周年を
迎える事ができました！！

ご清聴ありがとうございました。